

は、少し障害になりそうである。

エ、中心文をとらえる。

中心文をとらえるには、直感的にとらえることと、前途のA～ウまでのような読み方をして、どの文が大事な文か決めることがあると思われる。

また、大事な文であると決めるものさしを持っていなければならない。筆者の説明の意図から考えて、この段落の中心文（要点）は、これだと選び出すようにすべきである。

A子は、前提テストでは、「ようす、こうなった理由をいっているから」という観点から、中心文を選んでいく。また、

- ① 中心文が、段落のはじめにする場合、正答
- ② 中心文が、段落の終わりにある場合、正答
- ③ 中心文が、段落の中ほどある場合、解答なし。

となっている。「まとめの文」はどれかという問いに対して、誤答。更に事前調査でも概括している文を2問とも、解答できなかった。

中心文をノートに書き出すという課題に対し、A子は、次のようにしている。

この段落をひととおり読む。3分、そしてすこし考えて、ノートに書こうとする。考えている。この段落を、事前テストのとき一度、指導計画の「1」で一度、本時でと、三回読んでいく。しかし、まだ意識して文の関係を読み分け、中心文を決めることはできないようである。

まず、「こ」とノートに書く。そして、すぐ消す。となりのB子が、どう書いたか気にしてのぞく。

(B子は、国語もよくできる。おとなしいがしっかりしている。班長である。この子の通りやれば、まちがいのないことを経験から知っているらしい。)

そこから、「このやじる・・・」と書く。「このやじるしは、図書室へ行くにはどう行けばいいかを表しています。」と、書くつもりであったろう。しかし、書き終わらないうちに、次の学習（発表とたしかめ）へと進んでいっている。A子は中心文・大事な文について教師の説明を受けたり、「記号とはどんなものをいうのか」という読みの角度を

与えられても、まだ、つまづいているのである。

「理由をいっているから」というようなことから、中心文をとらえているのであろうか。選び出す観点をよく理解していないことのほか、つまづきの原因として次のような点が考えられる。

- 具体例にひかれること。
- 文の中での、ことばのかかり受けをとらえ、ことがらを概括することがよくできない。
- 文と文との関係がとらえられない。
- 中心文とは、どんな条件を備えているのか、よく理解されていない。

これらは、注意深く読む態度や、分析的に読む能力が基礎になるのであろう。

(4)の段階 第1段落の読みとり

他の子が指名されて読んでいく。A子も教科書を立てて、いっしょに読む。

前の席のすこし落書きのないD男が、消しゴムをおとす。それが、A子の机の下にころがっていく。A子は、そのことが気になって、下の方を見ていて、話し合いに参加しない。D男が、「とってくいと。とってくいと。」と、さいそくする。A子しかたなくとってやる。こんなことで、第1段落のことがらの読み深めをしないでしまう。学習の流れに乗らないで終わる。

(5)の段階 第2段落の読みとり

「ここでは、どんなことが書いてあるでしょう。」ときかれる。あらためて、教科書を読む。他の子らは、口々に答えたり、それに対しての意見を述べたりしている。A子は、話し合いに参加しない。

「その人とは」という教師の問いに反応して、教科書の文を指でおさえる。ここ、ここと、小さい声で言っている。しかし、挙手はしない。(自信がないのだろうか)となりのB子のことを気にしたり、前の子のちょっとした動きに心が向いている。

「はり紙のやじるし」が、ことばで教えると同じような結果をもたらすことを、しっかりと読みとることはできなかったであろう。

(6)の段階 第3段落と、第1・第2段落との関係